



「八つ墓村」の闇に潜る 洞窟探検

洞窟（どうくつ）探検は「ケービング」の名でアウトドアスポーツとして知られる。素人にはハードルが高く、遊び半分で足を踏み込めない世界に感じるが、どうしても体験してみたい。

「洞窟は岡山に限る」というこだわりがある。横溝正史の小説や映画、ドラマの「八つ墓村」「不死蝶（ちょう）」に出てきたような鍾乳洞をさまよってみたいからだ。インターネットで検索したら、観光用ではないマニアックな鍾乳洞を案内してくれる民宿が見つかった。

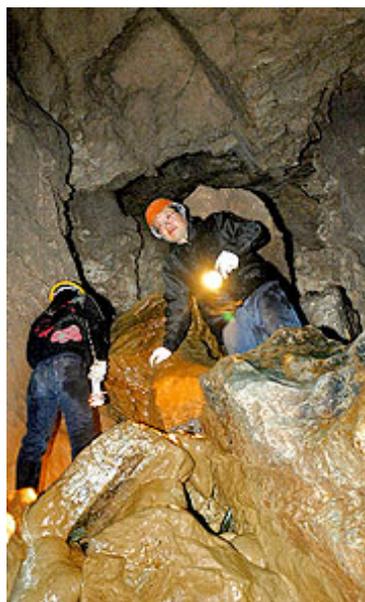
鳥取県境に近い岡山県新見市の「千屋（ちや）アウトドアハウス」は築90年の古民家を宿泊施設にした民宿だ。経営者の鈴木章弘さん（48）は静岡県出身ながら、鍾乳洞の魅力にとりつかれ、この地に住み着いた。大学卒業論文のテーマは鍾乳洞。現在も研究を続けている。

大小200の鍾乳洞が点在する新見市南部は山口、沖繩と並ぶ大鍾乳洞地帯という。新見は「八つ墓村」のN町のモデルで、映画やドラマのロケに度々使われている。千屋アウトドアハウスが案内する洞窟は6種類。「ちょっとお試しだけ」から「全身ずぶぬれ」まで、素人からマニアまで堪能できるさまざまな難度のコースを用意している。

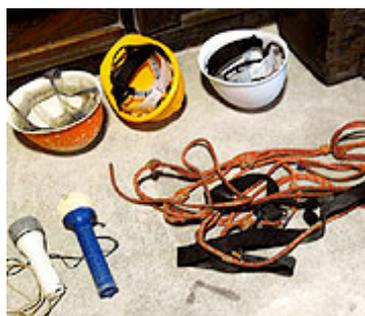
「『井倉（いくら）洞』や『八つ墓村』のロケに使われた『満奇（まき）洞』は観光洞窟です。内部は照明や歩道も整備されていて、観光案内の録音テープも流れますよ」と鈴木さんは言う。

「はいつくばったり、岩をよじ登ったり、探検隊気分を味わえる洞窟を」とお願いして選ばれたのは「宇山（うやま）洞」。岡山県内でも最大級で、県の天然記念物に指定されている。六つの洞窟のうち真ん中くらいの難度という。

ヘルメットをかぶり出発。しばらくは、なだらかな道のりが続く。目が闇に慣れてきても、懐中電灯なしには前に進めない。2、3分歩くと、だんだん暖かくなってきた。洞窟内の温度はその土地の1年間の平均気温と同じらしい。150メートルほど進み、天井を照らすと、コウモリの黒い影が無数にぶら下がっていた。眠っているの



宇山洞を案内する千屋アウトドアハウスの鈴木章弘さん＝岡山県新見市で、伊ヶ崎忍撮影



- + 新聞がわかる
- + プレミアムコラム
- + 投稿する
- + 本を読む
- + 歩く・旅する
- + 暮らしを彩る
- + 観る・聴く
- + 生活お役立ち
- + 大人を楽しむ(ネクストエージ)
- + 学生お役立ち(クラブ・ゼスト)

- サービス
- 読み物
- プレゼント
- イベント
- 応募終了



か、飛ぶ気配はない。

まもなく、洞は下方にかなりの傾斜をみせ、道幅は狭くなってきた。前日の大雨で洞内の水量はかなり増えていた。鍾乳石が形成した棚田のような部分に透明な水がたまっていて、洞窟の奥から激しい水音も聞こえてくる。やがて、岩に囲まれた滝に突き当たった。いよいよ難所に挑戦だ。

鈴木さんは大きな鍾乳石にザイルをかけながら、「岩を下るときのコツは3点支持。四肢を踏ん張り移動しますが、一つの手足を移動させるまで、残り3本の手足は絶対に動かさないで下さい」と真剣な口調で説明する。

こうした難所を往路に3カ所、復路に2カ所経験した。総延長約1キロのほぼ半分の辺り、入り口から35メートル下った地点で、「この先は素潜りが必要」というので残念ながら折り返した。残りの深さは20メートル。最奥には湖もあるという。夏場に再挑戦したい。(石塚知子)

やりかた

洞窟の難度はさまざま。指導者や案内役と相談して、自分のレベルをよく見極めた上で、探検する洞窟を選ぼう。観光洞窟以外に入るには、土地所有者の許可が必要な場合も多いので要注意。ずぶぬれになってもいいように着替えは用意しよう。

やるなら

千屋アウトドアハウス (<http://web.mac.com/chiyaaoutdoorhouse/>) は、宿泊者の中で希望者を周辺の鍾乳洞探検に案内している。1泊2食付き8400円で、洞窟探検は宿泊客への無料サービスという。全国の団体の情報は北九州市立自然史・歴史博物館内にある日本洞窟学会 (<http://www.netlaputa.ne.jp/~ssj/>) へ。

やってみて

落ち武者の遺体や謎の地底生物には遭遇しなかったが、懐中電灯が消えた瞬間の闇の深さは迫力満点だった。横溝マニアや、テレビ番組の「水曜スペシャル」に胸ときめかせた人は必ずはまるだろう。

たのしさ : ★★★★★

やさしさ : ★

やすさ : ★★★★★

☰ バックナンバー一覧

asparaは、セキュリティ確保のため、個人情報の入力時にはSSL暗号化技術を使用しています。

asparaに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
| [リンク](#) | [Q & A](#) | [著作権](#) | [利用環境](#) | [個人情報](#) | [会員規約](#)

Copyright 2007 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission



ご意見ご感想をお寄せください